

病院の 実力

～福島編 26

難度高い硝子体手術

と、視力が落ちた人の日常動作の訓練などをやる「ロービジョンケア外来」の有無を掲載した。施設によって、特定の分野の手術が多い傾向がみられる。医療機関を選ぶ際の参考にしたい。

硝子体手術は、糖尿病網膜症や網膜剥離に対して行われる。眼科の中でも難度が高い手術とされる。

白内障の水晶体再建術は、濁った水晶体を取り除き、人工の眼内レンズに置き換える。日帰り手術を行う施設もある。

徐々に視野が狭まる緑内障は、

むなどの症状が出る。PDTは、特殊な薬剤とレーザーを組み合わせて、視細胞の集まった中心部も治療できる。

ロービジョンケアは、視力が落ちた患者の生活の質を維持するうえで重要だ。専門外来を設置して、いなくても行っている場合もある。

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は2月7日「耳鼻咽喉科の病気」の予定です。

眼科

「病院の実力」は今回、眼科の治療を特集する。読売新聞は昨年11月、日本眼科学会が認定する専門医の研修施設1142医療機関に対し、2008年1年間の治療実績などをアンケートした。

一覧表には、硝子体手術、白内障の水晶体再建術、緑内障の手術、加齢黄斑変性に対する光線力学的療法(PDT)の各実施件数を

宇都宮市の大学病院から昨年4月、故郷の郡山市に戻り、目の中心部を占めるゼリー状の硝子体器具を差し込んで治療する「硝子体手術」を専門にしている。

こちらに来て感じるのは、失明原因で1、2位を争う糖尿病の合併症の糖尿病網膜症の患者さんが多いこと。糖尿病自体に気づかず、見えにくくなって大したことはないだろうと過ごすうちに視力がかなり落ち、初めて来院するといった患者さんが目立つ。

光や色を感じる網膜に余計な血管が増殖するなどして傷がついて発症する糖尿病網膜症は、軽ければレーザーで血管を焼いて進行を抑えることができる。早期にこの治療を受けていけば、症状が進んだ場合に行う「硝子体手術」でも良い結果が出やすいが、実際には治療が遅れて「もっと早くレーザー治療をしていれば、ここまでひどくならなかったのに」と残念に思うケースが少なくない。

糖尿病網膜症に注意

今泉眼科病院 菊池通晴・副院長(郡山市)

この手術は、繊細な指先の操作など高度な技術と経験が必要だ。眼科治療の最後の砦とされるが、県内では手術ができる常勤医が郡山市に2人、福島市の県立医大に5人しかいない。圧倒的に数が不足している。

目の病気を早期発見するコツは、たまに片方の目を隠してもう一方だけでもものを見ること。目は、片目ずつ悪くなることが多いが、両目で補って見えてしまい異常に気づきにくい。定期的な眼底検査による発見も、早期治療につながる。



網膜の中心部の黄斑部が痛む「黄斑変性症」は、視野の真ん中が暗くなり、読書など近くを見ようとするとストレスを感じやすい。逆に、視野が狭くなる緑内障は運転など遠くを見るのが苦手だ。施術後、残っている目の力を生かした時間の過ごし方を患者さんと考え、生活の質を向上させることも大切な治療の一つだ。

病院の実力「眼科の病気」

医療機関別2008年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	硝子体手術 (件)	水晶体再建術 (件)	緑内障に対する手術 (件)	加齢黄斑変性に対するPDT (件)	ロービジョンケアを行う専門外来
福島					
県立医大	507	593	42	253	ない
南東北眼科ク	108	929	25	14	ない
太田西ノ内	96	570	26	0	ない
今泉眼科	60	667	82	20	ない
白河厚生総合	7	365	10	0	ある
坂下厚生総合	1	249	1	0	ない
星総合	0	220	4	0	ない
宮城					
平成眼科	365	1986	61	62	ある
大崎市民	97	603	12	0	ない
国・仙台医療セ	15	188	10	0	ない
栃木					
独協医大	664	1019	88	60	ない
自治医大	267	825	37	-	ある
済生会宇都宮	125	700	20	0	ない
足利赤十字	86	469	15	0	ない
原眼科	84	1434	82	0	ない
那須南	11	247	2	0	ない
佐野厚生総合	0	422	4	0	ない

「国・」は独立行政法人国立病院機構、「セ」はセンター、「ク」はクリニック。「-」は未回答。